

くつろげる「ぶどう狩り」提供

長瀬町 観光農園「ぶどう工房OIKOS」
接客・雰囲気よく、将来はカフェ経営も



岡田さん（左）と井上さん

【埼玉】長瀬町の観光農園「ぶどう工房OIKOS」では、秩父のオリジナルぶどう「ちちぶ山ルビー」やシャインマスカット、巨峰などの品種を栽培。9月中旬から10月下旬までぶどう狩りが楽しめる。

同農園を経営する株OIKOS Nomos代表取締役社長の岡田大輔さん（41）は6年前に就農。就農2年目に県農業大学校で同期だった井上大悟さん（39）と農業法人を設立した。

岡田さんがブドウを選んだのは収益性が高く、消費者へ直接販売できるから。秩父市の明日の農業担い手塾に入塾し、2年間研修した。

指導農家などの協力により希望に合う農地を確保できた岡田さん。観光農園では雰囲気づくりにこだわり、景観や休憩スペースの居心地に気を配った。

また、おいしいブドウの見分け方や、品種ごとの味や食感の楽しみ方を社員全員で共有し、来園者にわかりやすく丁寧に説明できるよう心がけている。こうした接客や雰囲気の良さが口コミで広がりが、「毎年楽しみに来てくれるお客も多い」と岡田さんは話す。

「若手として地域農業を引っ張っていける存在をめざしたい」「将来はカフェやレストラン経営も始めて、より多くの人に農業のすばらしさを伝えていきたい」と二人は今後の夢を語る。